

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 溪仁会	代表者	谷内 好	法人・ 事業所 の特徴	札幌市で定山溪に次ぐ高齢化地域である、青葉地区に位置する単独型事業所である。利用者の方6割以上が独居の方で、認知症を有する割合も高い。その状況下で地域の方々、主治医との連携を重視し、今までしてきた生活に寄り添った支援を柔軟に展開しています。住み慣れた自宅、地域での生活の限界点を引き上げることが出来るように、個別機能に応じた自立支援を行っている。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護あおば	管理者	大沢 庸輔		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	1人	人	1人	1人	2人	3人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認			A-1について一取組みが、評価表で、確認できました。改善点がしっかりとされている。家族との関係性については、これからでしょう。 A-4について一業務終了時の、ミーティングがしっかりと出来ていないのであれば、改善点と思う。 勤務体制も今後、作り上げていきましょう。	A1~4について 事業所自己評価の各項目での改善計画に準じる。 A-1について 次回はパート職員も自己評価に参加してもらおう。自己評価を生かし、個々のスキルアップにつなげて行く。
B. 事業所の しつらえ・環境			B-1について 事業所の場所が2階にあるので、入りにくい点はある。案内板の設置で対応できている。児童館交流については、世代間交流が出来ていてよい。 B-4について 鍵がかかっていることが良いことなのか？評価の判断が付きにくかった。 セキュリティの点を考えると、不審者が来るなど心配はないか？防犯対策も必要。フリーすぎることも問題ではないか。	B-1について .外の掲示板を活用して、広報をして行く。 B-4について 地域の方が自由に出入りできる場所を目指す。 そうすることで、地域の方の目が行き届き安心できる拠点となる。 (地域の目をセキュリティとする)
C. 事業所と地域のかかわり			C-1.について 事業所全体の挨拶が良い C-2.について 小規模多機能型居宅介護と言うサービスが、どんな内容なのか、一般の方にはわかり難いのではないか。 C-3.について 職員の対応も良く、相談しやすい状況である。地域の行事の参加の実績もあり、続けていくと良い	C-2について ホームページ等でサービスの内容等、知ってもらおう。 C-4について .地域の行事に継続して、参加して行く。

			<p>C-2について .子供との交流から親世代に小規模の事が話され、広まっていくのではないか。地域とはどの範囲のことを示すのか、漠然としている。</p>	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			<p>D-1について 施錠はなく、閉じ込めている事実はない。 夜間は、インターホン対応で、開錠する仕組みにしている。 D-4について 地域との関わりの実績として、路上で体調が悪く歩けなくなっていた方の支援をした事がある。最近になって、車椅子を借りたいと連絡あり、貸した経過がある。 プライバシーの問題もあり、安易に関わる事が困難なこともある 緊急時の支援については、評価することである。</p>	<p>D-4について 職員それぞれの視野が広がり、支えていけるように、経験や技術を向上できる取り組みをして行く。 地域の困りごとや、地域とつなぐ役割をはたせるよう、事業所全体のスキルをあげていく。</p>
E. 運営推進会議を活かした取組み			<p>E1～4について 事業所が地域の安心拠点となれるよう、取り組みが見える。開所、一年と言うことを考えると、まだまだ、地域との取り組みも、会議での意見を改善に向けることも、これからではないか。地域包括からの相談に、サービスが繋がらなくても対応している、個別課題が地域の課題だったりする。</p>	<p>E1～4について 会議に出席される方も、事例を持ち込めるような、関係作りに努める。 事例検討や学習会の実施。 利用者様の参加等メンバーを広げて、多様な意見を頂き、運営にいかして行く。</p>
F. 事業所の防災・災害対策			<p>F1,2について 災害時は、ここが安心拠点となるのでは。防災計画については、早急に対応が必要か。 F-3について 地域の防災訓練に参加させてもらってはどうか。 F-4について 備蓄の必要性はないか AEDの設置が必要ではないか 他の事業所では運営推進会議に、消防団の方の参加がある。そうすることで、防災、災害に強い事業所になるのではないか。</p>	<p>F1～4について 夜間訓練の実施。 風、水、地震時の防災計画の立案。 AEDの設置場所の変更、救急法の学習。 地域の訓練に参加できるよう消防団の方へ依頼する。</p>